

付録－6

損傷度判定及び対策検討の目安

「附属物（標識・照明施設等）の点検・対策要領（案）」では、発生した損傷の程度を判定するための、損傷度判定基準が規定されている。

本資料は、損傷度判定基準の一般的状況を現地で収集した損傷写真をもとに例示し、損傷度判定の一定の目安を表すものである。

なお、以下に「附属物（標識・照明施設等）の点検・対策要領（案）」における損傷度判定基準の抜粋を示す。

1. 損傷度判定基準


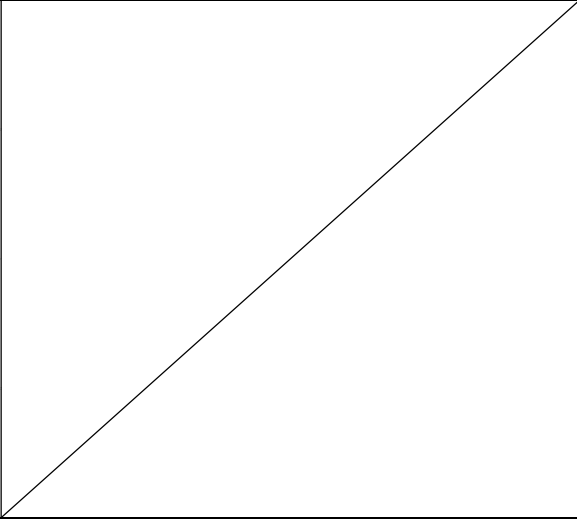

目視点検による損傷度判定基準は表－1. 1のとおりとする。


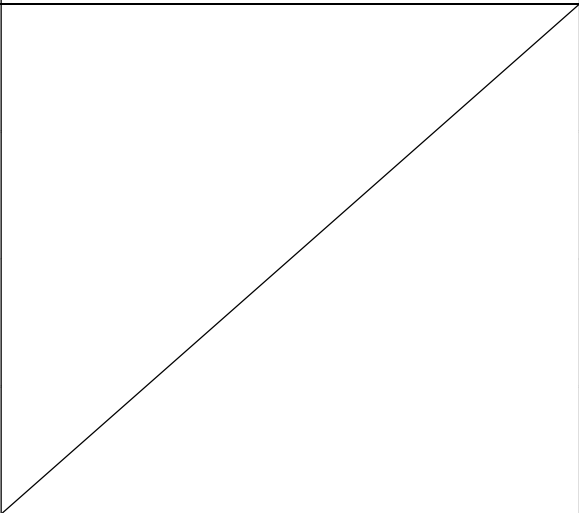

表－1. 1 目視点検による損傷度判定基準

判定区分	一般的状況
a	損傷が認められない。
c	損傷が認められる。
e	損傷が大きい。

表一解 1. 1 損傷度判定区分と損傷状況

点検方法	損傷内容	判定区分	損傷状況	備考	
目視点検	き裂	a	損傷なし		
		c	—		
		e	き裂がある。		
	腐食	防食機能の劣化	a	損傷なし	
			c	錆は表面的であり、著しい板厚の減少は視認できない。	
			e	表面に著しい膨張が生じているか、または明らかな板厚減少が視認できる。	
		孔食	a	損傷なし	
			c	孔食が生じている。	
			e	貫通した孔食が生じている。	
		異種金属接触腐食	a	損傷なし	
			c	—	
			e	異種金属接触による腐食がある。	
	ゆるみ・脱落	a	損傷なし		
		c	ボルト・ナットのゆるみがある。		
		e	ボルト・ナットの脱落がある。		
	破断	a	損傷なし		
		c	—		
		e	ボルトの破断がある。 支柱等の部材の破断がある。		
	変形・欠損	a	損傷なし		
		c	変形または欠損がある。		
		e	著しい変形または欠損がある。		
滞水	a	滞水の形跡が認められない。			
	c	滞水の形跡が認められる。			
	e	滞水が生じている。			

損傷 判定 区分	き裂	部 位	灯具及び灯具取付部	
e			状 況 灯具に、き裂が確認される。	
			要 因 振動によるものと考えられる。	
			措置の目安 灯具を交換する必要がある。	
			備 考	
c			状 況	
			要 因	
			措置の目安	
			備 考	
a			状 況 健全な状態である。	
			要 因 —	
			措置の目安 —	
			備 考	

損傷 判定 区分	き裂	部 位	柱脚部（リブ取付溶接部）	
e		状 況	リブ取付溶接部に、き裂（写真では塗膜の割れ）が視認された。	
		要 因	振動によるものと考えられる。	
		措置の目安	早急に補修又は更新する必要がある。	
		備 考		
c		状 況		
		要 因		
		措置の目安		
		備 考		
a		状 況	健全な状態である。	
		要 因	—	
		措置の目安	—	
		備 考		

損傷 判定 区分	腐食（防食機能の劣化）	部 位	灯具及び灯具取付部	
e			状 況 断面欠損を伴う腐食が認められた。	
			要 因 経年劣化が要因と考えられる。	
			措置の目安 灯具の更新が必要であると考ええる。	
			備 考	
c	 		状 況 部分的に錆が発生している。板厚減少は認められない。	
			要 因 経年劣化によるものと考えられる。	
			措置の目安 板厚減少を伴う腐食に進行する恐れがある場合は、部分的な補修塗りが必要である。	
			備 考	
a	 		状 況 健全な状態である。	
			要 因 —	
			措置の目安 —	
			備 考	

損傷 判定 区分	腐食（防食機能の劣化）	部 位	開口部（電気設備用開口部）	
e		状 況	断面欠損を伴う腐食が視認される。	
		要 因	経年劣化と雨水等の滞水が要因と考えられる。	
		措置の目安	支柱本体の更新が必要と考えられる。	
		備 考		
c		状 況	蓋全体に錆が発生している。板厚減少は認められない。	
		要 因	経年劣化によるものと考えられる。	
		措置の目安	板厚減少を伴う腐食に進行する恐れがある場合は、部分的な補修塗り又は蓋の交換などを行う必要がある。	
		備 考		
a		状 況	健全な状態である。	
		要 因	—	
		措置の目安	—	
		備 考		

損傷 判定 区分	腐食（防食機能の劣化）	部 位	柱脚部（路面境界部）	
e		状 況	路面を掘削したところ、埋設箇所 ¹ に腐食による断面の貫通が確認された。	
		要 因	支柱と路面との隙間に水が滞水し、腐食を進行させたものと考えられる。	
		措置の目安	早急に更新する必要があると考える。	
		備 考		
c		状 況	路面を掘削したところ、埋設箇所 ¹ に腐食が視認された。なお、板厚調査の結果、残存板厚は管理値を満足している。	
		要 因	支柱と路面との隙間に水が滞水し、腐食を進行させたものと考えられる。	
		措置の目安	塗替を行い腐食の進行を抑制するとともに、必要に応じてコンクリートなどで根巻きし、排水勾配を設ける。	
		備 考		
a		状 況	健全な状態である。	
		要 因	—	
		措置の目安	—	
		備 考		

損傷 判定 区分	腐食（防食機能の劣化）	部 位	柱脚部（アンカーボルト・ナット）	
e		状 況	全体的に腐食が発生しており、断面減少も著しい。	
		要 因	経年劣化と雨水が要因と考えられる。	
		措置の目安	新規部材に更新する必要があると考える。	
		備 考		
c		状 況	全体的に錆が発生している。断面減少は認められない。	
		要 因	経年劣化によるものと考えられる。	
		措置の目安	錆の進行を抑制するために、補修塗りが必要である。また、保護キャップの設置も有効であると考えられる。	
		備 考		
a		状 況	健全な状態である。	
		要 因	—	
		措置の目安	—	
		備 考		

損傷 判定 区分	腐食（防食機能の劣化）	部 位	柱脚部（リブ取付溶接部）	
e			状 況	腐食による断面の貫通が視認された。
			要 因	エッジ部や溶接部の塗装不備により，腐食が発生し進行したものと考えられる。
			措置の目安	早急に更新する必要があると考えられる。
			備 考	
c			状 況	全体に錆が発生している。断面減少は視認されない。
			要 因	経年劣化や溶接部の塗装不備により，腐食が発生し，進行したものと考えられる。
			措置の目安	錆の進行を抑制するために，補修塗りを行う必要があると考えられる。
			備 考	
a			状 況	健全な状態である。
			要 因	—
			措置の目安	—
			備 考	